眼底検査でわかること

皆さんが受診する健康診断などで、目にぴかっと光をあてて写真をとる検査があります。これが「眼底検査」という検査です。今回はこの検査についてです。

瞳孔から入った光が突き当たる眼底内の奥の部分を「眼底」と言います。この検査は写真（画像）に撮影したり、目に光を当てて瞳孔から眼底をのぞき、その状態を観察します。調べているのは、網膜や視神経乳頭、血管の状態、出血、白斑（血管からしみだした血液成分が網膜に沈着して生じる白い濁り）などです。

網膜は人の体の中で唯一、血管が直接観察できる場所です。このため、動脈硬化、脳梗塞、高血圧などの血管に関わる全身の病気を推察できるため、生活習慣病の検査としても有効です。

また、血管を直接観察できることから、糖尿病の三大合併症の一つ「糖尿病性網膜症」の発見もすることができます。糖尿病性網膜症は日本では成人が失明する主要な原因ですが、初期には自覚症状がないため、眼底検査を行わないと見つかりません。

全身の病気だけではなく、もちろん眼の病気についてもわかります。特に重視されているのは、緑内障の発見です。

緑内障にかかると、視神経が委縮して視神経乳頭の部分がへこんできます。この状態を「視神経乳頭陥凹(ししんけいにゅうとうかんおう)」といいます。正常眼圧緑内障を早く見つけるには、眼底検査でこのへこみを見つけることが決め手になります。

また、水晶体に濁りが生じる「白内障」や「硝子体混濁」など、眼底より前の部分に起こる病気があると眼底写真がはっきり写らないことがあります。このことから目になんらかの問題があると診断され、眼科での診察を促すことができます。

このように眼底検査は、様々なことがわかる検査なのです。

健康に自信のある方でも 40 歳を過ぎたら人間ﾄﾞｯｸなどで眼底検査を受けることを、ぜひともお勧めします！